

第2日目

08月04日(日・晴)

起床4:00-三伏峠小屋発5:00-塩見小屋7:02-塩見岳8:19-蝙蝠
尾根分岐8:59-旧キャンプ場10:14-安倍荒倉岳10:29-熊ノ平小屋
13:01(泊)

単純標高差=上り 三伏峠小屋2550m~塩見岳東峰3052m=約502m

下り 塩見岳3047m~熊ノ平小屋約2550m=約497m

何時頃だったろう?真夜中に激しい雨の音が聞こえ目覚めた。しかし、時計を見ることなく、再び眠りについた。早朝、私は3時過ぎに目覚めた。雨の音はなかった。おそるおそる外に出てみた。私の予想とは裏腹に満天の星空があった。「星が近い」。

早朝からテンションが上がり、一気に目が覚めた。出発予定時間にはまだ早い、ゆっくりと出発の準備を始めた。日頃、朝食をあまり食べない私が、早朝にも関わらず完食していた。山マジックだろうか?

ヘッドランプを点け、いざ、出発。今日は三伏峠小屋から今回の山行のメインの一つである塩見岳を登り、熊ノ平小屋を目指していた。

出発早々、目の前に広がる山々があった。右側にはメインの塩見岳、左側は雲海、その奥には中央アルプス?が見えた。正面には仙丈岳から甲斐駒、北岳、間ノ岳、農鳥岳が連なっていた。先週、北岳から間ノ岳を登った時に、間ノ岳がガスに掛かり見えなかったことを残念に思っていた為、この景色を満喫していた私は、深夜の雨の影響の泥道もさほど不快には思わなかった。そして、今朝のこんな景色を見てテンションが上がりっぱなしになっていた。

直ぐに、樹林帯に入った。樹林帯の中にも、時々、朝の陽ざしが差し込んで、塩見岳も木の合間から見る事が出来、益々テンションが上がっていた。しかも、樹林帯を抜けた時には富士山が見えて、テンションがマックスになっていた。そのおかげか、山行二日目で食料も沢山あったのにも関わらず、まだまだ重いザックを背負っていたが足取りは軽く感じられた。



塩見岳黎明



塩見岳上り



塩見岳東峰頂上

本谷山を足早に通り返り、塩見小屋まで一気に登った。今日初めての休憩もそこそこに塩見岳の頂上に向かった。塩見岳はかなり近くに見えて、頂上まで1時間とあったので、山頂への期待感が増していた。塩見岳の頂上までは厳しい岩場が続いたが、綺麗な花も沢山あり気持ちが和んだ。

リーダーのG殿は難なく登って行った。小柄なM姫は、K姫のアドバイスを受けながら力を合わせて登って行った。私が大きな岩での足の置き場所に困っていると、すかさず、直ぐ後ろを来ていたK殿からアドバイスが入った。有難かった。頂上までは塩見小屋から1時間以上掛っていた。一足先に頂上に着いたG殿は雷鳥を見たらしが、私達が着いた時には、残念ながら雷鳥の姿はなかった。それでも、頂上から延々と仙塩尾根が続き遠くには仙丈岳が見え、360°のパノラマの景色を楽しんだ後、今日の長い山行を思い、二回目の休憩もそこそこにまた先を急いだ。

塩見岳を下り始めると、ガラガラした小さい石のすべりそうな道が続いたため、慎重になった。どンドン下った。塩見岳を惜しんで私は何度も振り向いた。そこにはもうガスが掛かり始めていた。途中には沢山の高山植物があった。「高嶺ビランジ」があり、花に詳しいG殿とK姫が「最高の花」だと教えてくれ、綺麗な花を楽しんだ。

北荒川岳の分岐からはハイマツ、幻想的な樹林帯が続き、何度もアップダウンが繰り返されたが、樹林帯を抜けると度々お花畑があり、景色の変化を感じとれた。キャンプ場の

跡地では沢山のお花が咲いていた。お花の名前を教えてもらうが、沢山過ぎてなかなか覚えることが出来ないが、北岳の高山植物の本を買ったので少しは覚えようと思い始めていた。遠くで鹿の鳴き声が聞こえた。

空はもう曇っていたので、三回目の休憩もそこそこにまた先を急いだ。山では常に早めの行動を取らなければならないが、のんびり屋の私は「早く早く」と思うが、出足が常に一步遅れていて、ここでもまた遅れた。



塩見岳下り



南の巨人



仙塩尾根

まだまだ樹林帯とお花畑のアップダウンの道が繰り返されていた。途中、鹿の食害で見事に食べつくされた場所があった。時計を見ることなく、かなり歩いた。道にはみ出したハイマツの枝が切られ、手入れされていた。「そろそろ山小屋が近い」K殿、M殿が揃って言った。先に行くG殿からの「着いたドオー」の叫ぶ声。

今日の長い長い山行の終わりの喜びが伝わってきた。ようやく、私達にも熊ノ平小屋の屋根が見え、水の流れる音が聞こえ、直ぐに小屋に着いた。13:00過ぎだった。ここは静岡市営の山小屋だった。

着いて早々、着替えを済ませ、明日の準備を整え、いつものようにお酒を飲みながら団欒した。みんな山の話になると今までの経験、これから行きたい場所の話などをして目を輝かせて話していた。そうこうするうちに、夕飯の時間となり、山とは思えないバランス

のとれたメニューの食事がおいしかった。みんなで完食した。夕食の後はまた団欒となり、去年の山行でも逢ったという山ガールお二人と一緒に。一人の人が言った言葉が印象的だった。「山以外の遊びがつまらなくなった」と。

まだまだ山以外のこともやりたいと思っている私にもそんな日が来るのだろうか……。楽しい団欒も就寝時間となり今日の長い山行を無事に終えた。

その他の記述（後藤）

1. 塩見岳途中から去年の荒川岳、赤石岳（少し）、兔岳、聖岳がよく見えた。
2. 塩見小屋は小さな小屋で、昨夜泊まった方は廊下だったとのこと。
3. 塩見岳は西峰＝3047m、東峰＝3052m。三角点は西峰にある。
4. 塩見岳下りで、イギリス人夫婦（？）に会った。
5. 北荒川岳付近の梅蕙草の花は鹿に見事なまでに食べつくされていた。標高約2800mに足跡と鹿道があった。
6. 熊ノ平小屋の対応は家庭的で温かく、素晴らしく良い。
7. 小屋の水は豊富。ただ、物凄く冷たくて手を浸すと痙攣しそうだった。
8. 小屋のトイレは外で階段を下りて行く。夜間はちょっと大変。
9. 大トイレは傾いていて前が高いので、ちょっとやり難い。
10. 朝食の時間が早く有難い。
11. 日本酒は「大雪溪」。白馬錦と並ぶ北信の銘酒。熱燗OK。一合500ー。
12. ここは1976年冬縦走したが全く記憶がない。（当たり前か??!!）



高嶺ビランジ



昨年、聖平で交流した方



酒は大雪渓



交流会



小屋テラスから農鳥岳



高嶺塩竈

主に観察した花

七竈、岩爪草、千島桔梗、高嶺塩竈、色丹草、岩扇、深山大根草、白山千鳥、高嶺ビランジ、白山風露、高嶺高輪花、丸葉岳蓐、伊吹麝香草、車百合、白山石楠花、深山苧環、信濃金梅、深山金鳳花、高嶺爪草、姫小米草、苔桃、黄花駒爪、白山一華

以上